

多様な特性をもつ生徒の学びに向かう力を育成するための学習支援

笠井裕司

平澤紀子

（岐阜県郡上市立三城小学校）（岐阜大学大学院教育学研究科）

KEY WORDS：学びに向かう力 学習支援 セルフマネジメント

（目的）

通常学級には学習面や行動面の困難を含み多様な特性をもつ児童生徒が在籍していることから、ユニバーサルデザインを取り入れた授業研究がなされているが、それぞれの生徒の学びに向かう力の育成については未検討である（桂・石塚・廣瀬・小貫，2018）。本研究では、生徒が自らの学び方を計画し、その結果を評価するセルフマネジメント（竹内・園山，2007）を基に、多様な特性をもつ生徒の学びに向かう力を育成するための学習支援を検討する。

（方法）

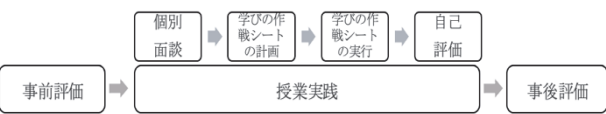


図1 本研究における学習支援

- ①倫理的配慮：実践校の管理職に対して、文書により研究計画、個人情報の保護、結果の公開に関する説明をし、許可を得た上で研究を進めた。
- ②時期・対象：X年6月～12月、A市立中学校2年生1クラス（31名）で行った。対象生徒は特別な支援を必要とする5名（障害の診断のある3名と校内判定2名）と事前評価・個別面談から抽出した7名の12名であった。
- ③事前評価・個別面談：クラス全員に英語の自己効力感（森田・福屋・船越，2017）を基に作成した英語学習の状況を調査し、特別な支援を必要とする生徒5名にはLDI-R（上野・笹・海津，2008）から学習面や行動面の困難を把握した。これらを基に、個別面談を実施した。
- ④学びの作戦シート：竹内・園山（2007）の示すセルフマネジメントを参考に、学び方を計画、実行、評価をするための「学びの作戦シート」を作成した。対象生徒は「得意なことやできていること」から学びの作戦の計画、実行、評価を行った。教師は事前評価や個別面談、学校生活の行動観察を踏まえ、対象生徒が学びの作戦を選択するのを支援した。
- ⑤評価分析方法

- (1)英語の自己効力感に関する自己評価：事前7月と事後11月に、10項目5件法の評価を得て、変化を分析した。
- (2)学びの作戦シートと自己効力感の関連：対象生徒が記入した実行と効果と自己効力感との関連を分析した。
- (3)社会的妥当性の評価：事後12月に、英語科担当教員、学級担任、通級指導教室担当教員、管理職に、学習支援の有効性に関する4項目5件法の評価を得て、分析した。

（結果）

- (1)対象生徒の自己効力感に関する自己評価結果：事前から事後で、10項目中7項目の平均評価点が向上した。特に「5.授業で自分の意見を言うことができる」と「7.授業で教わった内容を、きちんと覚えていられる」は有意に向上した。
- (2)学びの作戦シートの実行結果と自己効力感の変化の関連：学びの作戦は実行され、週が進むにつれて、効果が記入されるようになり、作戦に取り組む量の増加、苦手な項目へ

の挑戦、作戦を組み合わせるといった工夫がみられた。この学びの作戦と対応した自己効力感の項目が向上した（表1）。

表1 対象生徒の学びの作戦シートの実行結果と自己効力感の変化の関連

対象生徒	学びの作戦	1週目			2週目			3週目			自己効力感	向上した項目
		実行	効果	実行	効果	実行	効果	実行	効果	実行		
A	A: 授業のときに B: わからない問題は先生や友達に質問する。C: そうすると、発表できる。	○	○	—	—	—	—	—	—	—	4項目	2.授業集中 3.授業内容理解 4.質問に回答 5.授業で意見
B	A: 授業の終わりに B: 大切なところにマーカーを引く。C: そうすると、集中できる。	○	△	◎	○	○	○	○	○	○	3項目	1.授業発表 2.授業集中 10.授業の困り(減少)
C	A: 英文を読むとき B: 単語に読み仮名をつける。C: そうすると、読めるようになる。	—	—	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3項目	2.授業集中 3.授業内容理解 4.質問に回答
D	A: 復習をするとき B: eライブラリアドバンスに取り組む。C: そうすると、気軽に学習できる。	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	4項目	1.授業発表 4.質問に回答 5.授業で意見 9.勉強への努力
E	A: 予習をするとき B: 本文をノートに写す。C: そうすると、授業に参加できる。	—	—	—	—	○	△	—	—	—	3項目	1.授業発表 5.授業で意見 6.授業で質問
F	A: 先生の指示を聞くとき B: 聞き逃さないようにする。C: そうすると、何をすべきかわかる。	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	1項目	5.授業で意見
G	A: 授業や自主学習で英単語や文法を覚えるとき B: 本文の音読を意図的に行う。C: そうすると、すぐに思い出せるようになる。	—	—	◎	◎	○	△	—	—	—	3項目	4.質問に回答 5.授業で意見 6.授業で質問
H	A: 復習をするとき B: 自学でワークに取り組む。C: そうすると、学習内容を覚えていられる。	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3項目	3.授業理解 5.授業で意見 9.勉強への努力
I	A: 長い文法を覚えるとき B: 絵や語呂でイメージする。C: そうすると、思い出しやすい。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	7項目	1.授業発表 4.質問に回答 5.授業で意見 6.授業で質問 8.予習・復習 9.勉強への努力 10.授業への困り(減少)
J	A: 勉強の合間に B: YouTubeで興味のある内容を英語で観る。C: そうすると、リスニングに慣れる。	—	—	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	0項目	
K	A: リスニングの練習をするとき B: Youtubeで英語のニュースを見る。C: そうすると、ネイティブの発音に慣れる。	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	0項目	
L	A: リスニングの練習をするとき B: Youtubeで興味のある内容の動画を英語で観る。C: そうすると、ネイティブの発音に慣れる。	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3項目	4.質問に回答 5.授業で意見 6.授業で質問

- (3)社会的妥当性の評価：教員から、対象生徒の変容や効果について肯定的な評価が得られた。管理職から、対象学級の变容や教員の意識の変容について肯定的な評価が得られた。

（考察）

本研究では、学習面や行動面の困難や英語の苦手さをもつ対象生徒が学びの作戦を計画し、実行することを支援した。その結果、対象生徒は学びの作戦シートを実行し、その作戦に対応した項目の自己効力感が向上した。このことは、教師が対象生徒の「得意なことやできていること」からできそうなことを提示し、対象生徒が選択した学びの作戦を実行したことで、自らの特性に合った学びの方法が明確になり、課題に取り組むことができるようになったことから生じたものと考えられる。さらに、学びの作戦を実行する中で、次第に作戦に取り組む量が増加したり、苦手な項目に挑戦したり、他の作戦を組み合わせることで実行したりした。学習支援の有効性についても、教員や管理職にも肯定的に評価された。以上の結果から、中学校英語科において、多様な特性をもつ生徒の学びに向かう力を育成するために、セルフマネジメントに基づく学びの作戦シートを用いて、生徒の得意なことやできていることから支援することが有用であるといえる。

（文献）

- 1)CAST（2011）学びのユニバーサルデザイン（UDL）ガイドライン全文 Version 2.0（金子晴恵・バーンズ・亀山静子訳）。
- 2)竹内康二・園山繁樹（2007）発達障害児者における自己管理スキル支援システムの構築に関する理論的検討。行動分析学研究。20（2），88-100。

（KASAI Yuji, HIRASAWA Noriko）